

フクシマ原発事故から15年
とめよう原発3.7全国集会



福島第一原発事故をきっかけに、2011年より全国の脱原発を目指す団体が、脱原発を訴える集会を毎年開催。グリーンコープは、2011年から参加し、全国の団体とともに脱原発を訴えている。

脱原発の全国集会で 託送料金訴訟について アピールしました



▲全国集会に参加した組合員。

集会開催前に「託送料金訴訟」についてのリーフレットを会場周辺で配り、集会への参加を呼びかけました。

グリーンコープは、(一社)グリーンコープでんきの事業を進める中で、東京電力福島第一原発事故の費用などが託送料金に含まれることを知りました。その違法性や責任を問うため、国を相手に「託送料金訴訟」を起こしています。

3月7日、「とめよう原発3.7全国集会(以下、全国集会)」が東京の代々木公園で開催され、約8,500人が集いました。グリーンコープからは組合員9人が参加し、「託送料金訴訟」について報告し、原発のない社会の実現を訴えました。



▲集会後は横断幕を手にデモ行進を行い、街行く人に脱原発を訴えました。

共生の時代

みどりの地球を
みどりのままで

2026 5 月

発行：一般社団法人グリーンコープ共同体理事会
編集：共生の時代・編集部
〒812-8561
福岡市博多区博多駅前一丁目5番1号
博多大博通ビルディング4階
TEL092(481)7923
FAX092(481)7876
<https://www.greencoop.or.jp/>

Contents

GMOフリーゾーン運動 2-3
20周年記念アジア大会

東日本大震災十五年後集会 4-5

GREEN CO-OP MILK vol.6
びん牛乳学習会 6-7
上西 一弘さん講演会

グリーンコープのイチオシ!
め生本わさび(静岡県産本わさび使用) 8
め生おろししょうが(国産しょうが使用)

めグリーンコープ
グリーンコープは持続可能な開発目標(SDGs)を支援しています。

2026年3月の
組合員数 (3/20現在)

431739人

互恵のためのアジア民衆基金
2026年3月に
組合員の利用によってたまったのは
473,101円
2009年4月からの累計は115,656,294円

グリーンコープの託送料金訴訟とは

本来東京電力が支払うべき福島第一原発事故の「賠償負担金」と、それぞれの原子力発電事業者が支払うべき「廃炉円滑化負担金」を、小売電気事業者が支払う託送料金(電気の送配電に使う電線使用料)に上乗せすることを、国会での審議を経ずに経済産業省令で施行したことについて、認可の取り消しを求めた裁判。2020年10月15日、(一社)グリーンコープでんきが国を相手に裁判を起こし、現在最高裁に上告中(2026年4月21日現在)。

全国集会では、原発に反対する各団体の参加者が、ステージや出店ブースで脱原発を訴えました。グリーンコープの組合員も、脱原発運動の一つとして「託送料金訴訟」を起こしたことを広く知ってもらいたい、裁判を起こした経緯や争点についてステージで力強く訴えました。

会場では、生活者の視点で思いを伝える組合員の言葉に大きくうなずいたり、熱心に聞き入る人たちの姿が見られました。

全国集会の場で「託送料金訴訟」についてアピールすることで、多くの人々に関心を持ってもらう機会となりました。

脱原発の取り組みを力強く訴えました

託送料金の問題は
私たち一人ひとりの問題です

グリーンコープ生協さが
理事長 永田 知子さん



東京電力福島第一原発事故後、グリーンコープはこれまで以上に脱原発社会を実現していこうという思いを強くしました。(一社)グリーンコープでんきを設立し、組合員からの出資金をもとに、自然エネルギーによる発電所づくりや原発フリーの電気の小売事業を行っています。新電力事業者が電気を届けるためには、大手電力会社の送配電網を利用しなければならず、そのための費用である託送料金を支払っています。その託送料金に、送配電事業とは全く関係ない福島第一原発事故の費用などを上乗せすることが、国会での審議を通さずに経済産業省令で決められました。

グリーンコープは国を相手に訴訟を起こし、この問題を広く社会に訴えることにしました。しかし、一番も控訴審も、私たちの訴えは退けられました。このままでは、これからも原発推進の費用が国民から徴収され続けます。

子どもたちの未来を守るためにも、原発はなくしていかねばなりません。託送料金問題は私たち一人ひとりの問題です。もっと多くの方々にこの問題を知ってほしいと願っています。

子どもたちの未来のために 脱原発をすすめていきます

グリーンコープ共同体 組織委員会
委員長(当時) 上川畑 由美さん



商品に何か問題があった場合、事業者は商品を回収したり、被害を受けた人に賠償を行います。そして、責任が取れないものを売ることは決して許されません。しかし、電気事業だけはそれが許されています。

グリーンコープは、脱原発運動の一つの到達点として、原発に頼らない電気事業を始めました。電気のことを調べている中で、電気料金、とりわけ託送料金のおかしい部分に気がきました。そこで組合員が検討を重ね、おかしいことにはおかしいと声を上げていこうと、「託送料金訴訟」に取り組んできました。

おかしいということをわかりやすく意見書にまとめて届けているのですが、裁判では見向きもされません。私たちの思いがなぜ通じないのだろう。そういう気持ちで裁判を闘ってきました。

子どもたちの未来のために、安心して暮らせる社会をあきらめるわけにはいきません。誰かが変えてくれるのを待つのではなく、私たち一人ひとりが声を上げ、つながり、子どもたちの未来のため頑張っていきます。

7 エネルギーをみんなに
そしてクリーンに

12 つくる責任
つかう責任



大切な故郷や暮らしを守るため 原発に頼らない社会を つくっていきましょう



浪江町から見た福島第一原発(2020年12月撮影)



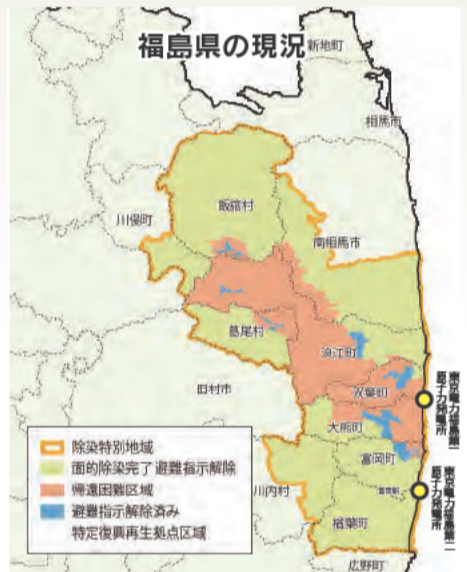
講師
菅野みずえさん
東京電力福島第一原発事故
被災者・原発賠償訴訟関西
福井県や関西で、自治体へ
の原発再稼働反対の申し入
れなどの活動を続けている。

演題 今、私たちのこと、 やがてあなたの方のこと

グリーンコープは、「いのち・自然・暮らし」を脅かす原子力発電とは共存できないと考え、脱原発社会の実現に向けて運動に取り組んでいます。2024年12月4日、共同体組織委員会は「2024年度脱原発学習会」を開催し、福岡市内の会場とオンラインを合わせて組合員185人が参加しました。東京電力福島第一原発事故の被災者である菅野みずえさんを講師に迎え、事故当時の体験や脱原発運動をお話して伝えたいことなどを聞くことで、参加者一人ひとりが原発の問題を身近に引き寄せる機会となりました。当日の講演内容と参加した組合員の声を紹介します。

2011年3月に 浪江町で起こったこと

2011年の原発事故当時、私は福島県大熊町の地域包括支援センターで社会福祉士として働きながら、浪江町下津島という小さな集落で、息子と犬と一緒に暮らしていました。冬になると毎朝雪をかき、住民みんな子どもたちのために学校までの道をつくって助けた。そんな人と人との距離がとてつもないほど近かった。浪江町は福島第一原発から6kmほどのところにあり、多くの住民が原発で働いていました。町と東京電力との契約では、万一事故が起こった場合、東京電力は直ちに立地市町村や府県、国に知らせ、国が避難命令を出すことになっていました。しかし大地震が起きた3月11日、原発事故について町からは何も連絡がありませんでした。当時私は、原発よりも津波の心配を



復興庁HPより。避難指示解除の状況と帰還困難区域(2023年12月現在)

12日、再び津波が来るかもしれないと町から避難命令が出され、沿岸から遠い我が家には25人の方が避難してきました。しかしその夕方、防護服で身を固めた人が突然現れ、今すぐここから避難するよう涙ながらに訴えられました。原発事故で放出された濃度の高い放射性プルームが流れてきていたのです。多くの人は翌日、津島地区より遠くの避難先に向かいましたが、私と息子は地域に残った。高齢者や病人の方々のことが心配で残りました。原発で大きな爆発が起きたのは、さらにその翌日の14日でした。

※1 放射性雲。原子力発電施設等から放出された微細な放射性物質が、大気に乗って煙のように流れていく現象

被ばくの実態を突きつけられて15日の朝8時、全町避難の命令が出され、私たちは大阪にいる夫のもとに向かうことになりました。しかし道中、放射能汚染に関して安全という証明書がないと県外に避難でき

きないと分かり、スクリーン検査を受けるために郡山市の総合体育館に立ち寄りしました。3時間並んだ末にようやく測定を受けると、ガイガーカウンター(放射線測定器)の測定値が10万c.p.m.を超え、針が振り切れてしまいました。後日調べたところ、福島県の記録では、15日にあの場所では10万c.p.m.を超えた例は5件となつています。しかし私には、もっと多くの人が私と同様に針が振り切れていたように感じられました。

避難先では、「あなたたちのせいで放射能が拡がった」と冷たい扱いを受け、「私たちは腐ったミカンになってしまったのだ」と感じたこともありました。その後6月に福島県桑折町が浪江町民を受け入れてくれることになり、息子と一緒に桑折町の仮設住宅で5年間暮らしました。桑折町は浪江町民を準町民として扱ってくれました。

私は2016年に受けた避難者検診で甲状腺のガンが見つかり、手術しました。今は残った甲状腺ががんにならないように服薬を続けています。※2 1分間に検出器に当たった放射線の数を表す単位

原発事故が遺したもの

電力供給は人々の暮らしを豊かにするためのものであったはずですが、しかし私は、被ばくによって健康や故郷までも奪われました。こんな電力は本当に必要でしょうか。私たちがその上の世代は、核の平和利用ということで、原発を人類の英知のように受け止め、受け入れてしまいました。そのことを今、とても恥じています。だからこそ、原発事故が起こったらどんなことになるのか、多くの人に伝えることが私の仕事だと思っています。

原発事故から13年経った今も、我が家の周りには帰還困難区域です。人がいなくなった浪江町では大手企業が次々と工場を建設したり、広大な土地で大規模農業が行われて

故郷や今の暮らしを二度と失わないために

放射能汚染を継続して測定するのは大切なことだと身にしみて感じています。測定した結果があれば、何かあった時に「この汚染は原発事故のせいだ」と立証することができそうです。そして自分たちの暮らしを守る大事な資料となります。

私は浪江町でみんなと一緒に年若いいくはずでしたが、2011年3月11日を境にその未来を失い、全く違う人生を歩むことになりました。しかし、皆さんは3月11日から続く今日を生きていらつしやいます。皆さんには、自分たちの暮らしを守っていくために、実施している残留放射能検査の取り組みを続け、自分たちで調べるといっていただくことです。

参加者の感想より(抜粋)

- ・ たった一度の原発事故がどれだけの不幸を生み出してきたか、これまでの認識が甘かったことを痛感した。
- ・ あまりの理不尽さと酷さに、怒りで言葉を失った。狭い島国の日本に、やはり原発は必要ない。
- ・ 事故はたまたま福島だっただけ。そこら中に原発がある限り、この地震大国で次に事故が起こるのは、今日、明日かもしれない。知ること、伝えることを続けていきたい。
- ・ 被災した一人ひとりにそれぞれの悲しみや憤りがあつただろう。もう二度と同じ思いをするところがないように、これからは脱原発運動を進めていきたい。



No.201

グリーンコープの残留放射能検査について ～変えない基準の大切さ～

1986年のチェルノブイリ原発事故後、グリーンコープは組合員が食品の放射能汚染実態を知り、自主的に判断できるように1989年に「グリーンコープ放射能汚染測定室」を設置しました。それ以降、放射能測定検査結果を機関紙「共生の時代(別紙)」やホームページですべて公開しています。

国の基準値は、2012年4月から一般食品100ベクレル/kg、乳児用食品・牛乳50ベクレル/kgとなっています。これはいのちを守る基準値と言えるでしょうか。

グリーンコープはすべての商品や原料について10ベクレル/kgをアクションレベル(自主基準)としており、それ以上の数値が出た場合は理事会に報告し、取り扱いについて検討・決定することになっています。東京電力福島第一原発事故後に基準値を変えてくる国に信頼はなく、そもそも放射能に安全な数値などありません。「子どもたち・私たちの未来のために」グリーンコープが放射能汚染と向きあうことの大切さを感じます。

グリーンコープ共同体組織委員会